

平成17年度（2005年）

竹富島の種子取祭

西表国立公園ビジターセンター 竹富島 ゆがふ館

- 1、9月11日（旧暦8月8日）、ユーンカイ（世迎え）。竹富島にニライカナイの国から神々によって、種もみがもたらされるという神事が行なわれる
- 2、9月12日（つちのとい）、節祭（昔の正月）、新しい節を迎える。
- 3、節祭から49日目のつちのえねの日を祭日とする種子取祭にはいる。
- 4、本年は、11月31日がつちのえねの日に当たり、その日に種を蒔く。昔から、それより4日前のきのえさるの日から種子取祭の日程に入るとされている。
- 5、10月27日（きのえさる）はトゥルッキと称し、祭の計画手配をなす。玻座間、仲筋の両地区の長者（ホンジャ）の前で無事に奉納芸能が尽くせるようにとの祈願を行なう。
- 6、10月28日、29日、30日は種子取祭の諸準備。踊り、狂言の稽古。
- 7、10月31日（つちのえね）。早朝から幕舎張りなど奉納芸能の舞台づくりを行う。各家では種まき。主婦はイイヤチ（飯初）作り。公民館役員や神司は、揃って玻座間御嶽、世持御嶽・清明御嶽、根原家などを廻り種子取祭の願いを行なう、神司は、その後それぞれの御嶽で祈願して案内をかける。
- 8、11月1日（つちのとうし）、ンガソウジとって、前日に蒔かれた種がしっかりと土につくように、精進を尽くす日とされる。家の主がブマガナー・ブナルンガン（姉や叔母を神とすること）を招いてイイヤチ戴みの儀式などもある。芸能の稽古の総仕上げの日。午後8時から公民館役員、三郷友会長などがブドゥイドゥンや狂言ドゥンを訪ねて挨拶し激励をする。
- 9、11月2日（かのえとら）。バルヒルの願いの日、奉納余興初日。午前6時、弥勒奉安殿には公民館役員、有志、三郷友会長などが弥勒興しの祈願。玻座間御嶽では神司たちの祈願。その後、両者は世持御嶽で合流し、バルヒルの願い、イバン取りの儀式がある。場所を奉納余興の舞台に移して、干鯛の儀式が行なわれる。そして、8時前、仲筋村の野原 健主事宅へ参詣。9時頃、世持御嶽へもどる。午前8時頃から全国竹富島文化協会主催

の種子取祭に関する講話がまちなみ館で行われる。

9時半頃から、庭の芸能を奉納。棒術、太鼓、マミドー、ジッチュ、マサカイ、祝種子取、腕棒、馬乗者の順で行なわれる。

10時半頃から玻座間村の舞台の奉納芸能が行なわれる。その順序は、玻座間長者、弥勒、鍛冶工、組頭、世持、世曳狂言など。

別途プログラムあり。曾我の夜襲で初日の芸能は終了する。

17時半頃、イバン戴みの儀式がある。それから世乞い(ユークイ)が始まる。世乞い(ユークイ)は、種子取祭を始めた根原カンドウをまつる根原家から始まり、その後、三地区に別れてユークイが深夜まで行なわれる。西地区は、玻座間長者家、神司の家、主事宅、それから各家々を回わり最後は有田家。東地区は、宇根家、与那国家、神司の家、館長宅、その後に各家々を回り最後は宇根家。

仲筋村は、仲筋長者家、神司家、主事宅、その後に各家々を回る。

22時半頃石垣への臨時便あり。

- 10、11月3日(かのとう)。午前5時、三地区に別れていたユークイの一行は、根原家で一つになってユークイの留めを行なう。

5時半頃、世持御獄へ。イバンの返上を行ない、ユークイは総て終了。

二日目のムイムイの願い。幸本フシンガーラの願い日とされ、それを祝して仲筋村のシドゥリヤニが奉納される。その後、前日同様の干鯛の儀式がありその後、玻座間村西地区の大山祐達主事宅へ参詣。

9時頃、世持御獄へもどる。9時半頃から、庭の奉納芸能(前日と同じ)がある。10時半頃から、仲筋村の舞台の奉納芸能が終日行なわれる。別途奉納芸能プログラムがある。仲筋村長者、弥勒、御主前狂言、種蒔い狂言、天人狂言などがあり、最後は鬼捕り。(二日目の奉納芸能のうちの舞踊のいくつかは玻座間地区の東と西が一年ごとに5点提供することになっている)。5時半頃、芸能の奉納はすべて終了。6時半頃、石垣行臨時船便あり。種子取祭首尾方の御礼(世持御獄、弥勒奉安殿)。

- 11、11月4日(みずのえたつ)。早朝から幕舎片付け。午前10時頃から竹富公民館で公民館役員・有志と三郷友会(石垣・沖縄・東京)との懇談会がある。支払い議会。夜は全国竹富島文化協会の総会が開催される。

- 12、11月5日(みずのとみ)。種子取祭物忌^{むぬん}。現在は省略している。